



遠藤れい子ひまわりレポート



○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3丁目1-3 ☎ 0258-32-1741 fax 0258-32-6443
○県議会執務室 〒950-0965 新潟市中央区新光町4-1 県議会内 ☎025-280-5475

連合委員会の質疑応答（その2）

県立病院は充実強化こそ必要

コロナ感染第7波で8/9県に緊急要望



県の地域医療構想 計画は見直しを
遠藤質問 総務省の「公立病院経営強化ガイドライン」は新型コロナウイルス危機を踏まえ「病院間の役割分担・連携強化」を強調し、病床削減から「方針転換」「統合撤回」などと報道されている。財政支援も、「不採算の病院」の機能を維持しつつ、医師派遣などで他病院と連携するやり方も支援することとされた。こうした変化を受けて、県のグラウンドデザインも抜本的に見直すべき。

むべきものではないとの答弁だった。先行きの見えなような状況を続けるのではなく、県民のいのちと健康を守るため、不採算地域の病院は県立で維持するという知事の姿勢を示すことが重要と考える。

知事答弁 厚労省は新型コロナウイルスの中でも、構想の基本的な枠組みを維持しつつ、引き続き着実に取り組みを進めていく必要があるとしている。県としては持続可能で質の高い医療提供体制の構築に向けて、各圏域の実情に応じた医療再編の議論を進めていく。

へき地4病院は県立で運営すべき
遠藤質問 委員会では地元市町村にとっても重い重要な事項であり、住民を含め地元関係者の理解を得ながら進めていく必要がある。期限を設けて取り組むべきものではないとの答弁だった。先行きの見えなような状況を続けるのではなく、県民のいのちと健康を守るため、不採算地域の病院は県立で維持すること

ためには、市町村や民間医療機関との適切な役割分担の下、県立病院が果たすべき役割に重点化を図っていくことは重要である。市町村主体の運営の議論は各地域の地域医療構想調整会議の議論を踏まえ、地元市町と丁寧に見直しを重ね、地元の考えや思いに

長岡空襲を悼む 終戦記念の街頭訴え

8月1日長岡空襲から77年。遠藤れい子県議、笠井則雄市議員、服部耕一前市議、長坂将志市議予定候補はアオーレ長岡の献花台にて犠牲者を悼み、鎮魂手向けの花をささげました。



8月15日、終戦77年の日、遠藤県議、笠井市議、服部前市議は市内を巡り、「歴史をしっかりと学び、戦災都市長岡から戦争反対を。憲法9条を守り、核戦争反対の声をあげましょう！」と街頭からお話をしました。

安倍元首相のご冥福を祈ります
でも**国葬には反対します**

寄り添いながら慎重に取り組みを進めていきたい。

【コメント】 着々と計画を進めるとの答弁だが、「地元の思いに寄り添い慎重に進める」とも答弁。それなら県立で維持すべきではないでしょうか。